



ドイツ語圏の社会や文化を全国最大規模の環境で学ぶ

世界第3位の経済大国であり、EUの政治・経済の中核を担うドイツ。音楽、文化、歴史に彩られた宮廷都市が魅力の観光大国オーストリア。これらドイツ語圏の国々に詳しい人は、未だ日本では希少な存在であり、ドイツ語に精通し、その文化や社会を深く理解する人材への需要は高まるばかりです。ドイツ語学科では、言語の基礎から始め、ドイツ語圏の人々、社会、企業の背景にある思想や文化を探究し、国際社会をドイツ語圏の視点から見る能力を備えた国際的な教養人を育成

します。全国最大規模の専任24名（うち5名がネイティブ教員）、非常勤26名（うち14名がネイティブ教員）の教員陣のもと、学生は高い語学力、専門知識、論理的思考力を磨きます。ドイツ語学科での学びは、単なる言語習得に留まらず、文化、歴史、社会への深い理解を通じて、学生の全人格的な成長を促進します。まさに、大学の使命「学問を通じた人間形成」を体現する場所、それがドイツ語学科なのです。

特色

1— 少人数クラスで基礎からドイツ語学習

2— “Zwei Wege, ein Ziel.” 国際的な教養人になるための2つのコース制

3— 留学などでドイツ語圏の生活を体感

コース

プロジェクトコース

CLIL（ドイツ語を使って内容も学ぶ）方式のカリキュラムで、学年に縛られることなく、自分の習熟度に合わせてドイツ語を学びます。課題解決学習にも取り組みます。日本にしながらドイツ留学しているかのような学修ができます。このアプローチにより、語学のみならず、実際の生活や業界で求められる実践的なスキルも身につけます。

リベラルアーツコース

「ドイツ語圏から世界を読み解く」をキーワードに、ドイツ語圏の文化、歴史、政治を基に、国際社会の複雑なテーマを学び、理解します。これは、単なる言語学習を超えた、文化的洞察と国際的視野の養成への旅です。専門的なゼミに入り、学術的なドイツ語テキストの分析と議論を通じて、ドイツ語圏の豊かな文化と歴史を深く学び、国際社会で活躍できる多面的な人材に成長することができます。

教員紹介

専門・研究テーマ／ゼミテーマ／教員名

ドイツ美術、西洋美術史

[美術・アートの現在を知る]

青山 愛香 教授

音楽学、西洋音楽史

[ドイツ語圏の音楽史]

木村 佐千子 教授

ヘルダーリン、

ドイツ・ロマン派の芸術

[詩を楽しむ、詩を考える]

矢羽々 崇 教授

ドイツ語教育・教育ポートフォリオ

N. 柳田 専任講師

ドイツ近現代史、東ドイツ知識人論

[東ドイツ史／ジェンダー史／ナチズム]

伊豆田 俊輔 准教授

ドイツ文学(近・現代)、ドイツ思想

[ドイツ語圏の批評理論]

工藤 達也 教授

近・現代ドイツ(語圏)文化

[近現代ドイツ(語圏)文化]

山本 淳 教授

英語教授法

M. J. クロフォード 教授

ハプスブルク君主国史、

啓蒙の出版メディア史

[ドイツ語圏の歴史文化／

ハプスブルク君主国の歴史]

上村 敏郎 教授

ドイツ語学、意味論、語用論

[翻訳から見るドイツ語の特徴]

黒子 葉子 准教授

18～19世紀のドイツ文学・思想

[「魔女」について]

渡部 重美 教授

英語教育

寺川 かおり 専任講師

労働社会学、労使関係論

[SDGs—ドイツのローカルな取り組み

から何を学べるか?]

大重 光太郎 教授

ドイツ現代史、政党政治

[ドイツ現代史(政治と社会)]

佐々木 淳希 専任講師

ドイツ語教授法

[Die deutsche Aussprache]

D. 藤澤 専任講師

日独文化交流、通訳翻訳論

[日独交流を考える]

相澤 啓一 特任教授

言語哲学

[考えることと表現すること]

金井 満 教授

ドイツ語圏の現代社会、移民教育

佐々木 優香 専任講師

日独比較文化・文学論

[異文化理解と

異文化間コミュニケーション]

M. ビティヒ 准教授

外国語教育学、ドイツ語教育研究

[ドイツ語をより良く、より深く知る

—英語などのヨーロッパ諸言語と比較して—]

境 一三 特任教授

ドイツ近現代史、社会運動

[ドイツの民主主義と市民社会の歴史]

川崎 聡史 専任講師

ドイツ語圏の演劇、演劇学

[「パフォーマンス」としての演劇を考える]

三宅 舞 専任講師

ドイツ語教育研究・外国語教育学

[Fremdsprachenlernen

außerhalb des Unterrichts]

M. ラインデル 准教授